

2018年3月期第2四半期 決算説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ
2017年12月1日

東証1部
【証券コード：9366】



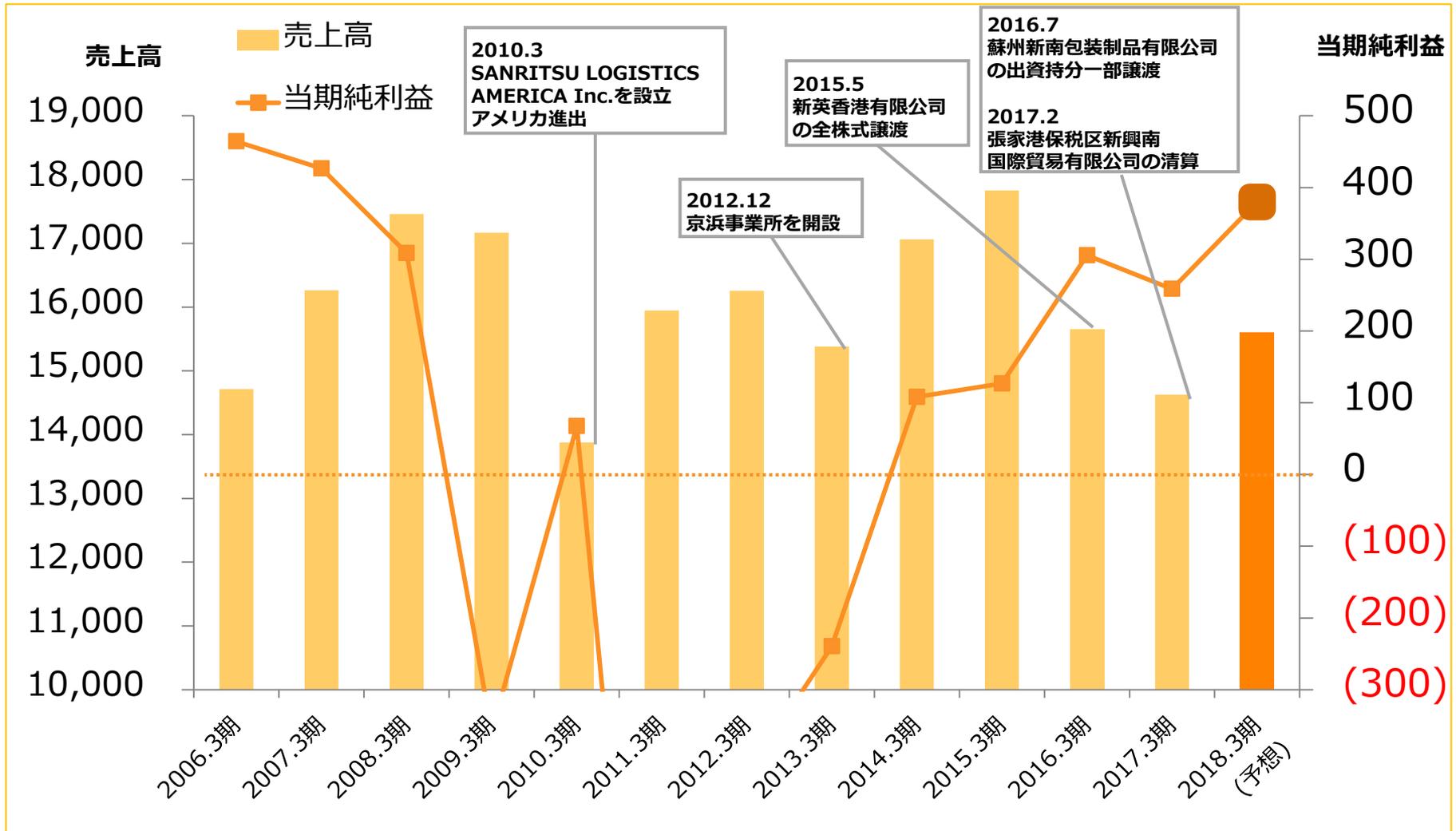
目次

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 当社の概要 | P2 |
| 2. 2018年3月期第2四半期 決算報告 | P5 |
| 3. 2018年3月期 決算見通し | P10 |
| 4. 中期経営計画と取り組み | P17 |
| 5. Appendix | P23 |

1. 当社の概要

業績の推移：収益体質改善、利益水準回復へ

(単位：百万円)



当社の概要：事業領域と取扱製品群別ターゲット

	庫内オペレーション ※1	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
小型精密機器	○	○	◎	○	○	△
大型精密機器	○	○	◎	○	○	△
医療機器	△	◎	○	○	—	○
工作機械	—	—	◎	—	○	○
その他	○	○	—	—	△	○

- ◎・・・強み、または経験値が高い事業領域
- ・・・取扱実績があるが、他社との差別化までいかない事業領域
- △・・・取扱実績があるが、まだ弱く、強化していきたい事業領域

※1：庫内オペレーション…倉庫内入出庫作業やその管理

取扱製品群別の主な特徴

- ◆ **小型精密機器／大型精密機器：**
日系企業を中心に工場構内や近隣倉庫にて、顧客に密着した物流業務を展開
- ◆ **医療機器：**医療機器製造業の免許取得と設備の整った倉庫をベースに、外資系企業を中心に日本における国内物流をサポート
- ◆ **工作機械：**日・中・米各拠点とも大型設備を保有し梱包を実施、自社物流ライセンスで国際物流を展開

2. 2018年3月期第2四半期 決算報告

2-1.2018年3月期第2四半期 決算概要

～全ての段階で増益を達成～

(単位：百万円)

	2017.3期 2Q	2018.3期 2Q	期初予想	予想比 差異	予想比 差異率	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	7,187	7,752	7,100	+652	+9.2%	+565	+7.9%
売上総利益 (売上総利益率)	1,359 (18.9%)	1,411 (18.2%)	—	—	—	+52	+3.8%
営業利益 (営業利益率)	218 (3.0%)	290 (3.7%)	220 (3.1%)	+70	+31.9%	+72	+33.0%
経常利益 (経常利益率)	158 (2.2%)	241 (3.1%)	160 (2.3%)	+81	+50.8%	+82	+52.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	37 (0.5%)	156 (2.0%)	100 (1.4%)	+56	+56.2%	+118	+311.6%
1株あたり 当期純利益(円)	6.45	27.97	17.41	+10.56	+60.7%	+21.52	+333.6%

◆売上高：増収

国際航空貨物及び制御システム取扱いにおける新規案件に加え
工作機械のスポット受注が増加

◆営業利益：増益

売上高の増加及び賃貸ビル事業において満室が寄与

2-2.取扱製品群別 決算概要

(単位：百万円)

取扱製品群		2017.3期 2Q	2018.3期 2Q	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	2,485	3,086	39.8%	+601	+24.2%
	大型精密機器	1,491	1,396	18.0%	▲95	▲6.4%
	医療機器	967	967	12.5%	▲0	▲0.0%
	工作機械	1,482	1,724	22.2%	+242	+16.3%
	その他	759	578	7.5%	▲181	▲23.8%
	合計	7,187	7,752	100.0%	+565	+7.9%

◆小型精密機器：増収

- ・輸出好調及び制御システム取扱いにおける新規案件により増収

◆大型精密機器：減収

- ・メーカーの積極的設備投資を背景に半導体製造装置の取扱量増加も、無線通信機器の荷動きが大きく減少

◆工作機械：増収

- ・輸出のスポット受注が寄与した他、海外子会社における取扱いも増加

◆その他：減収

- ・中国連結子会社2社が連結対象から外れたことにより減収

【参考】

2018.3期2Q 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率水準
小型精密機器	—
大型精密機器	○
医療機器	—
工作機械	△
その他	○

売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

2-3.セグメント別 決算概要

(単位：百万円)

セグメント		2017.3期 2Q	2018.3期 2Q	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	梱包事業	5,128	5,679	73.3%	+551	+10.8%
	運輸事業	1,037	1,036	13.4%	▲1	▲0.1%
	倉庫事業	903	895	11.5%	▲8	▲0.9%
	賃貸ビル事業	118	141	1.8%	+23	+19.7%
	合計	7,187	7,752	100.0%	+565	+7.9%
セグメント 利益	梱包事業	453	510	67.2%	+56	+12.4%
	運輸事業	25	33	4.5%	+7	+30.7%
	倉庫事業	176	163	21.6%	▲12	▲7.0%
	賃貸ビル事業	21	51	6.8%	+29	+136.5%
	合計	677	759	100.0%	+81	+12.0%

◆梱包事業：増収増益

- ・売上は、新規案件が大きく寄与し増収
- ・利益は、海外子会社における工作機械取扱い増加及び中国事業再編により増益

◆賃貸ビル事業：増収増益

- ・フリーレント期間が終了したことにより売上、利益ともに増収増益

2-4.地域別売上高 決算概要

(単位：百万円)

	2017.3期 2Q	2018.3期 2Q	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	6,783	7,366	95.0%	+582	+8.6%
中 国	193	67	0.9%	▲125	▲64.9%
米 国	210	318	4.1%	+108	+51.3%
合 計	7,187	7,752	100.0%	+565	+7.9%

◆日本：増収

- ・大幅増収

◆中国：減収

- ・前期に整理した華東地区の子会社2社が連結対象から外れたことにより減収
- ・上海地区の子会社は工作機械等の取扱量が増え増収、利益も黒字化

◆米国：増収

- ・工作機械の現地生産の拡大に伴うスチール梱包と調達物流の増加により増収

3. 2018年3月期 決算見通し

3-1.2018年3月期 業績予想

～期初予想より上方修正～

(単位：百万円)

	2014.3期	2015.3期	2016.3期	2017.3期	期初予想	2018.3期 予想	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	17,062	17,830	15,647	14,626	14,800	15,600	+973	+6.7%
営業利益 (営業利益率)	533 (3.1%)	565 (3.2%)	769 (4.9%)	627 (4.3%)	690 (4.7%)	750 (4.8%)	+122	+19.6%
経常利益 (経常利益率)	344 (2.0%)	385 (2.2%)	627 (4.0%)	478 (3.3%)	570 (3.9%)	620 (4.0%)	+141	+29.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (当期純利益率)	108 (0.6%)	126 (0.7%)	305 (2.0%)	258 (1.8%)	340 (2.3%)	380 (2.4%)	+121	+46.9%
R O E	1.6%	1.8%	4.4%	3.7%	4.8%	5.3%	+1.6pts	—
1株あたり 当期純利益(円)	18.01	21.13	50.90	45.03	59.19	66.16	21.13	+46.9%
1株あたり 配当(円)	13	16	18	16	22	22	+6	—

◆収益：増収増益の見通し

- ・ 制御システム取扱いにおける新規案件が足下順調推移

・ 売上	対期初予想	+5.4%	経常利益	+8.8%
営業利益		+8.7%	当期純利益	+11.8%

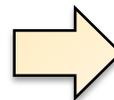
3-2.取扱製品群別 業績予想

(単位：百万円)

取扱製品群		2016.3期	2017.3期	期初予想	2018.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	5,067	5,212	5,660	6,230	39.9%	+1,018	+19.5%
	大型精密機器	3,484	3,049	2,740	2,740	17.6%	▲309	▲10.1%
	医療機器	2,143	2,067	2,100	2,100	13.5%	+33	+1.6%
	工作機械	2,816	2,798	3,070	3,300	21.2%	+502	+17.9%
	その他	2,137	1,498	1,230	1,230	7.9%	▲268	▲17.9%
	合計	15,647	14,626	14,800	15,600	100.0%	973	+6.7%

【参考】
2017.3期 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小型精密機器	○
大型精密機器	—
医療機器	—
工作機械	△
その他	—



売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

【参考】
2017.3期売上総利益率水準を
ベースとした2018.3期の水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小型精密機器	→
大型精密機器	→
医療機器	→
工作機械	↑
その他	↑

3-2.取扱製品群別 業績予想

【小型精密機器】

◆売上高 : 増収 (前期比+1,018百万円 増減率+19.5%)

◆総利益率 : 前期並み

- ・上期に続き輸出貨物及び制御システムの新規案件に注力、収益性向上を目指す

【大型精密機器】

◆売上高 : 減収 (前期比▲309百万円 増減率▲10.1%)

◆総利益率 : 前期並み

- ・半導体製造装置は引き続き好調も、無線通信機器の荷動き減少及び顧客の事業構造改革の影響継続により減収の見通し
- ・人員配置の見直しにより利益率の維持を目指す

【工作機械】

◆売上高 : 増収 (前期比+502百万円 増減率+17.9%)

◆総利益率 : 前期より改善

- ・国内外における取扱量増により増収増益の見通し

3-3.セグメント別 業績予想

(単位：百万円)

セグメント		2016.3期	2017.3期	期初予想	2018.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	梱包事業	10,974	10,362	10,570	11,250	72.1%	+887	+8.6%
	運輸事業	2,486	2,200	2,100	2,220	14.2%	+19	+0.9%
	倉庫事業	1,914	1,802	1,850	1,850	11.9%	+47	+2.6%
	賃貸ビル事業	271	261	280	280	1.8%	+18	+7.0%
	合計	15,647	14,626	14,800	15,600	100.0%	+973	+6.7%
セグメント 利益	梱包事業	1,043	1,041	1,070	1,155	67.3%	+113	+10.9%
	運輸事業	78	46	60	75	4.4%	+28	+60.4%
	倉庫事業	361	372	390	390	22.7%	+17	+4.7%
	賃貸ビル事業	82	77	95	95	5.5%	+17	+22.7%
	合計	1,566	1,538	1,615	1,715	100.0%	+176	+11.5%

◆梱包事業：増収増益

- ・中国事業再編や無線通信機器の荷動き減少を見込むも、成田地区の航空貨物取扱増加や海外工作機械取扱増加により増収増益の見通し

◆運輸事業：増収増益

- ・無線通信機器の荷動き減少を見込むも制御システム取扱い増加により増収増益の見通し

◆倉庫事業：増収増益

- ・成田地区の航空貨物保管における増床により増収増益の見通し

3-4.地域別 売上高予想

(単位：百万円)

	2016.3期	2017.3期	期初予想	2018.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	14,614	13,963	14,000	14,750	94.6%	+786	+5.6%
中 国	744	237	120	140	0.9%	▲97	▲41.0%
米 国	290	426	680	710	4.6%	+283	+66.5%
合 計	15,647	14,626	14,800	15,600	100.0%	+973	+6.7%

為替レート 2018.3期予想 1ドル=110円 1人民元=16.5円

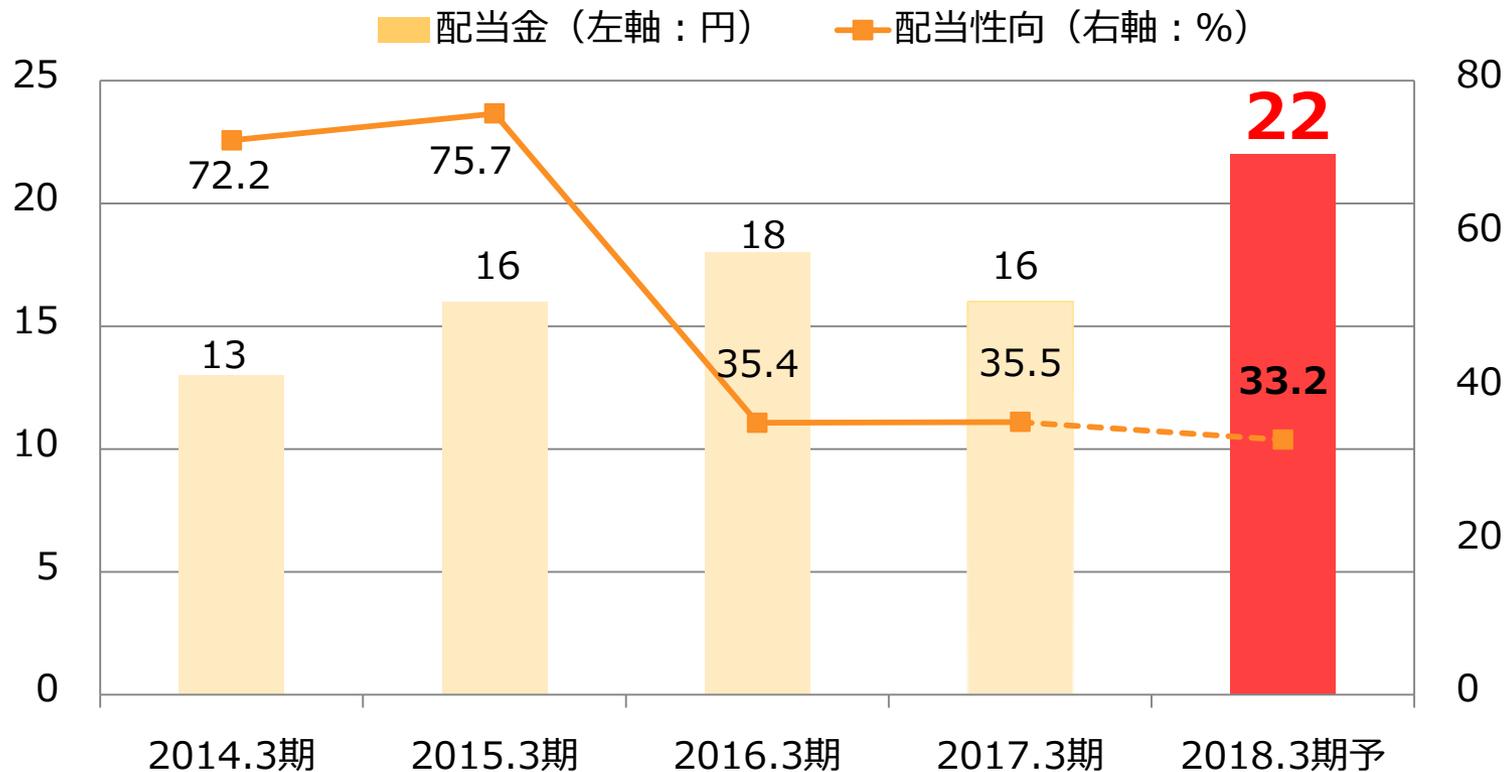
◆中国：減収

- ・ 2018.3期をボトムに、上海の子会社にて工作機械をターゲットとし梱包技術を活かした国際複合一貫輸送の営業展開を図り、収益向上を狙う
- ・ 材料費等の更なる経費削減を進め、黒字化を計画

◆米国：増収

- ・ 工作機械のスチール梱包と調達物流の取扱拡大、これに絡めた国際複合一貫輸送の拡大を図り、増収の見通し

3-5.配当について



◆連結配当性向を30%程度を基本とする

◆2018.3期：1株当たり22円を予定

普通配当 20円／創業70周年記念配当 2円

4. 中期経営計画と取り組み

4-1. 中期経営計画の概要

◆新ビジョン(中長期的に目指す姿)

オペレーションから ソリューションへ

◆経営目標

期 間	2020年3月期 最終目標	(参考) 2017.3期	伸び率
2017年4月 ~ 2020年3月	売 上 高 16,500百万円	14,626百万円	+12.8%
	営 業 利 益 950百万円	627百万円	+51.5%
配当方針	営業利益率 5.8%	4.3%	+1.5pts
30%目途	R O E 6.3%	3.7%	+2.6pts

4-1. 中期経営計画の概要

【国内物流事業】

1. 精密機械／医療機器

- ・ ノンアセット型新拠点を開設
- ・ 「立地」×「ソリューション営業」×「庫内オペレーションの高度化」で他社と差別化

2. 工作機械

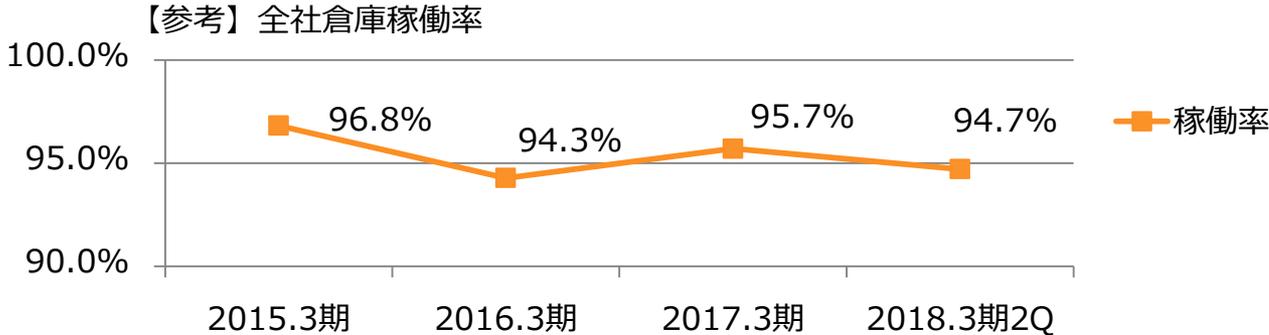
- ・ 現キャパシティで既存顧客の取引深耕により収益を維持

【海外物流事業】

1. 顧客に合わせたカスタムメイドの 国際輸送ネットワーク構築

2. 当社の梱包技術で事業拡大

4-2. 取り組み中の事例

活動項目	活動事例										
事業運営の 基盤強化	<p>◆2017年7月 統括組織を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品群に合わせたソリューションの実現を目指す 										
ノンアセット型 新拠点開設	<p>◆2017年4月～成田地区で倉庫賃借しオペレーションを開始 (10月末時点 1,400坪)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に小型精密機器を中心とした航空貨物の取扱 <p>【参考】 全社倉庫稼働率</p>  <table border="1"> <caption>全社倉庫稼働率</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015.3期</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>2016.3期</td> <td>94.3%</td> </tr> <tr> <td>2017.3期</td> <td>95.7%</td> </tr> <tr> <td>2018.3期2Q</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table>	期	稼働率	2015.3期	96.8%	2016.3期	94.3%	2017.3期	95.7%	2018.3期2Q	94.7%
期	稼働率										
2015.3期	96.8%										
2016.3期	94.3%										
2017.3期	95.7%										
2018.3期2Q	94.7%										

4-2. 取り組み中の事例

活動項目	活動事例
<p style="text-align: center;">IT投資による 省力化、効率UP の実現</p>	<p>◆自動ロボット制御ピッキングシステム 「AutoStore(オートストア)」2018年春に導入計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要顧客の一つであるボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社（BSJ社）と共同で導入 ・本システムは、既にBS社のオランダ拠点にて導入済み（この実績からKUKAグループのSwisslog社より同製品を購入） ・本導入効果についてBSJ社と検証を実施中。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463



5. Appendix

[参考]事業概要

梱包事業

- 小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐に渡り対応
- 製品形状や特質・送り先（国内外）・輸送状況を考え、製品の品質を保つ
- コスト的にも最善な梱包形態を提供

運輸事業

- 精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に低コストで配送
- 協力会社のサポートによる全国配送も可能
- 引越など輸送に関わる幅広い業務を行う

倉庫事業

- 空調を完備した快適な環境
- 24時間フルタイム管理・警備対応
- 梱包工場としての機能を有しており、流通加工、開梱並行処理拠点として機能していることに加えて、取扱製品に応じた設備を有する

国際物流

- 保税蔵置場に梱包工場を併設
- 梱包から保税蔵置・通関そして港湾・空港への輸送にいたるまで自社で対応
- NVOCC（外航利用運送事業者）として船会社からスペースを買い取ることで、目的地までの最適な輸送方法を、一貫した運用責任の下、提供する

3PL

- 物流改革の提案を行い、物流業務を包括的に引受ける
- 高度な梱包技術と包装設計を駆使し、自社内での梱包、輸配送、保管、在庫管理、保税通関、エンドユーザーまで届けている

包装設計

- 取扱製品が多岐に渡るため、様々な包装技術・技法及び材料を採用している
- 地球環境保護問題に対応した包装技術・技法の改善、向上を図っている
- 常に新包装技術の開発を行っている

[参考]2018年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2017.3期	2018.3期 2Q	前期比 増減	負債 純資産の部	2017.3期	2018.3期 2Q	前期比 増減
流動資産	4,863	4,968	+105	流動負債	3,700	3,824	+124
有形固定資産	12,098	11,966	▲132	固定負債	7,993	7,731	▲261
無形固定資産	105	89	▲15	負債合計	11,693	11,556	▲136
投資その他の 資産	1,757	1,799	+42	純資産合計	7,130	7,268	+137
固定資産合計	13,960	13,855	▲104				
資産合計	18,823	18,824	+0	負債・純資産合計	18,823	18,824	+0

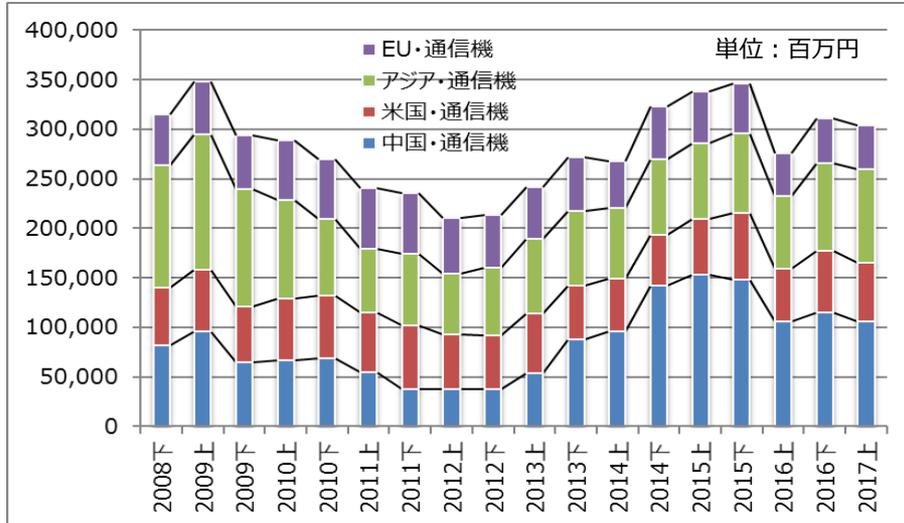
[参考] 2018年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018.3期 2Q	主な要因
期首残高 (2017年4月1日)	1,424	
期中増減額	▲165	
営業活動によるキャッシュフロー	+453	税金等調整前四半期純利益、減価償却費による資金の留保等によりプラス
投資活動によるキャッシュフロー	▲244	固定資産の取得等による支出
財務活動によるキャッシュフロー	▲373	有利子負債の減少によりマイナス
換算差額	▲0	
期末残高 (2017年9月30日)	1,259	

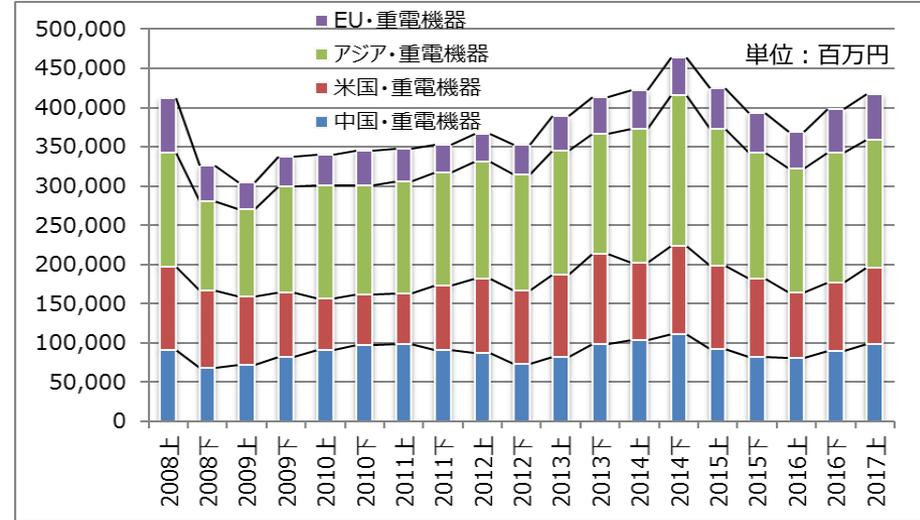
[参考]2018年3月期 業績予想／外部環境

品目別輸出金額 年別推移（通信機）



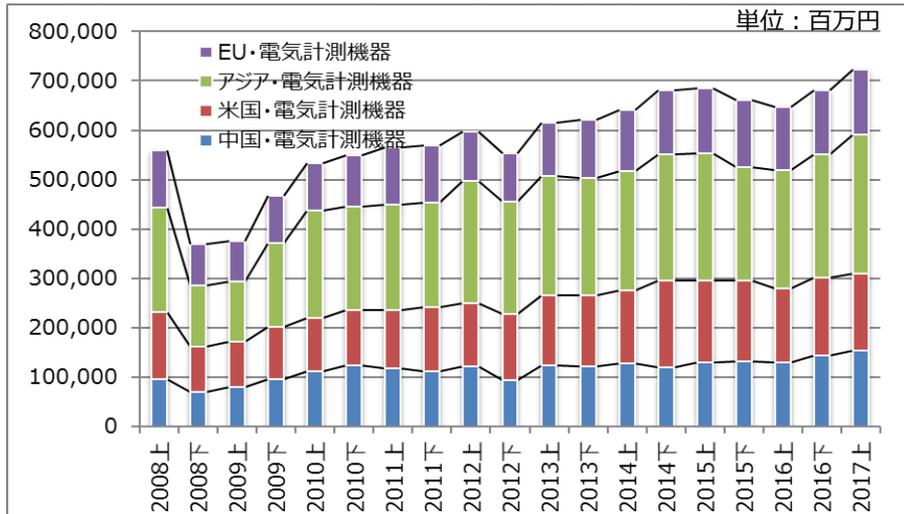
※通信機…レーダー、航行用無線機器及び無線遠隔制御機器
電話機（携帯回線網用その他の無線回線網用の電話含む）など

品目別輸出金額 年別推移（重電機器）



※重電機器…トランスフォーマー、電動機及び発電機など

品目別輸出金額 年別推移（電気計測機器）

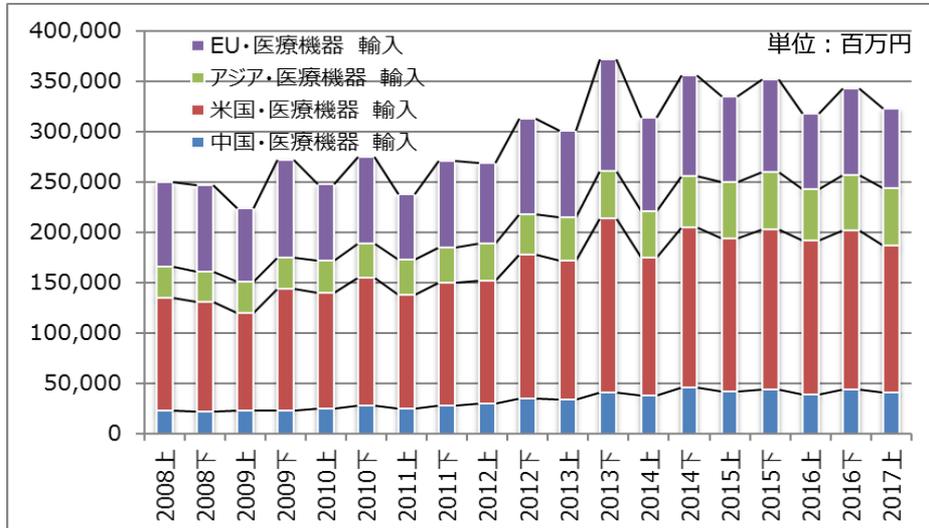


※電気計測機器…マイクロメーター、電気用計器など

・世界経済の持ち直しの動きが見られ、2016年度下期より機器類の輸出が回復、今後も堅調に推移するものと予想

[参考]2018年3月期 業績予想／外部環境

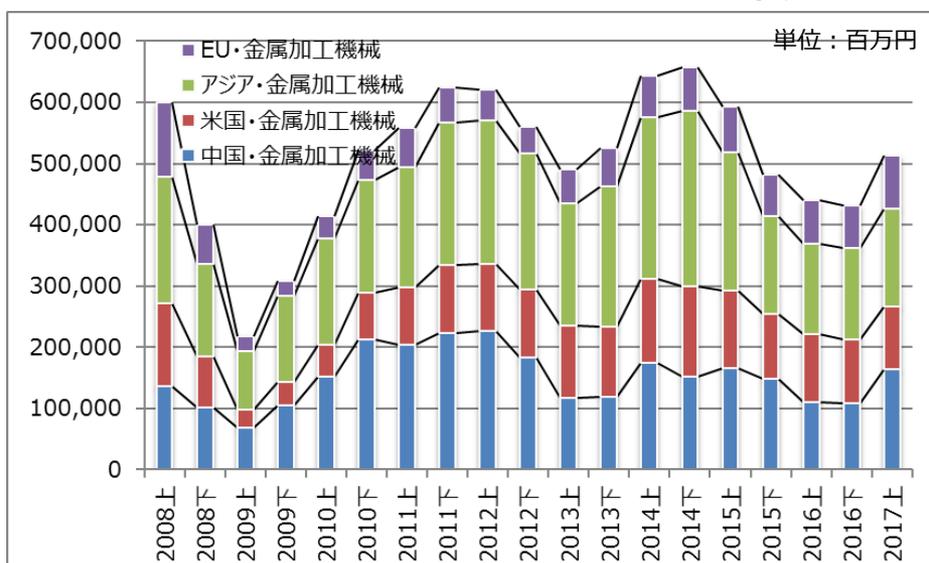
品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)



- 医療の高度化や高齢化に伴い、医療機器の稼働率向上や検査需要の増加への対応に伴い国内需要は拡大
- 輸入貨物は伸び悩み傾向だが、弊社取扱は安定的に推移するものと予想

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

品目別輸出金額 年別推移 (金属加工機械)



- 2017年度上期は中国向け中心に輸出が大きく伸長。
- 下期は中国向けはやや落ち着く傾向も、米国向けが増加するものと予想

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械